

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 22 日現在

機関番号：32510

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25511002

研究課題名(和文) アジア地域におけるモバイル・メディアの文化的受容に関する比較文化的研究

研究課題名(英文) Mobile media cultures in Asia: Stories and performances

研究代表者

金 キョンファ (KIM, KYOUNGHWA YONNIE)

神田外語大学・外国語学部・講師

研究者番号：90646481

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：日本ではケータイの大衆的普及が早かっただけに、モバイル・メディアについての研究が活発で、いわば「ケータイ学」という独自のかつ先駆的な探求領域が開拓されている。本研究は、その成果を継承しつつ、片方では限界と課題を乗り越える試みだった。その成果は、文化人類学的かつ実践的アプローチを用いた新しい方法論の検証 文化的実践としてのモバイル・メディアのあり方に関する知見という二つに大別できる。具体的には博士論文と単著本2冊を含め、書籍や論文など13本(2017年出版予定を包含)の出版物を出した。和文(5件)だけでなく、英語(6件)、韓国語(2本)で出版し、国際的影響力を高めたことも評価に値する。

研究成果の概要(英文)：This interdisciplinary research seeks to explore practices and challenges in thinking mobile media as a cultural and creative craft through the entanglement between technology, performance and storytelling. Drawing from practical ethnography delineated from cultural anthropological expertise, this research provides various scenarios of different layers of mobile media in everyday uses and performance, from challenging methodology such as oral discourse analysis, auto-ethnography and performance ethnography. During research period (2013-2016), one doctoral dissertation, two single-authored books, thirteen papers (academic journal and scholarly book) were published, majority of which were published in foreign languages (English and Korean).

研究分野：メディア論

キーワード：モバイル・メディア メディア論 メディア人類学 パフォーマンス・エスノグラフィー

1. 研究開始当初の背景

日本はケータイと無線インターネットの大衆的普及が早かっただけに、モバイル・メディアのメディア論的変容と社会的影響についての研究が活発に進められ、いわば「ケータイ学」と呼ぶべき、独自のかつ先駆的な探求領域を開拓してきた。一方、2010年代に、世界的にモバイル・メディアの普及が著しい中、海外では「モバイル研究 mobile studies」が新しい研究分野として浮上した。

同じくモバイル・メディアという対象を取り扱っているものの、両領域の間に協力的体制は整えておらず、知見の共有と人的交流が少ない現状だった。

2. 研究の目的

本研究は、モバイル・メディア文化を探求することを通じて、日本の「ケータイ学」と海外のモバイル研究を架橋しつつ、成熟したモバイル社会を育てられる知見を見出すことを目的にした。

「ケータイ学」はそもそも一つの学問領域に限らず、情報社会学、メディア論、歴史文化学などのアプローチを組み合わせた学際的探求として高い意義を持つ。本研究は、そうした学際的な試みを実践的メディア論として位置付け、メディア文化に関わる領域として再評価し、モバイル・メディア社会を実践的に切り拓く展望を見出すことを目的に設定した。

3. 研究の方法

(1) 文化人類学とメディア論を架橋する：モバイル・メディアの日常性に取り組む

生活に欠かせない存在となったモバイル・メディアは、その日常性のゆえに、厄介な研究対象である。モバイル・メディアに触れ合う行為が普通になりすぎて、意識と記憶から遠ざかってしまったからだ。このように「自明な出来事」となったモバイル・メディアのあ

り方を捕まえるため、文化人類学的方法論を生かし、その日常性に迫った。

(2) 過去と未来を架橋する：モバイル・メディアの実践史に取り組む

情報通信技術の進展によって導かれてきただけに、モバイル・メディアの研究領域では、技術中心の見方が強く、メディアに関わる主体の自主的、創造的な関わり方についての視点は乏しい。本研究は、モバイル・メディアの実践史という枠組みを通じて、技術中心の視点の限界を乗り越えることに試みた。

(3) 地域と地域を架橋する：ケータイの比較文化論に取り組む

モバイル・メディアはパーソナルな現象であると同時に、グローバルな現象でもある。本研究は、フィンランド、韓国など、モバイル・メディアの普及が早く、著しい影響が見られる、日本以外の地域との比較考察を通して、「ケータイ学」の地平をさらに広げること

4. 研究成果

(1) モバイル・メディアを研究する新しい方法論の検証：本研究を通じて、モバイル・メディアの文化的あり方を探求、記述するための方法論を検証し、実践的かつ解釈的方法論として位置付けた(金 2014)。具体的には①パフォーマンス・エスノグラフィー (performance ethnography, Turner 1987) のモバイル研究への援用可能性の検証 ②自己記述 (auto-ethnography, Denzin 2003) の再帰的モバイル研究法としての可能性 ③ワークショップ技法を生かした実践的モバイル研究(水越 2007)の可能性と課題、という三つのアプローチについての成果が出された。方法論の検証は、本研究を通して見出された視点とアプローチを持続していくための基盤として重要なのだと考えられる。

(2) 文化的実践としてのモバイル・メディアに関わる知見：主にメディア考古学(Huhtamo & Parikka)的なアプローチを通してモバイル・メディアの文化的原型を記述し、技術決定論的視点が強い、既存情報社会学の限界を乗り越える成果を多々見出した。

(3) 国内外影響力の強化および海外との協力体制の構築：多岐にわたるモバイル・メディアのあり方を探るプロジェクトであっただけに、メディア論、文化人類学、社会情報学を架橋する学際的な研究成果が見出された。博士論文 1 件のほか、単著本を含む書籍や論文など 13 件 (2017 年出版予定を包含) の出版物を出した。和文 (6 件) だけでなく、英語 (6 件)、韓国語 (2 本) で出版し、国際的影響力を高めたのは評価に値する。そのほか、4 年間 15 回にわたって国際学会や学術会議で発表の機会を設け、積極的に研究成果を共有した。とくに、フィンランド、オーストラリア、韓国など、モバイル研究分野で先進的な業績を出している地域の研究者との交流を通じて、人的ネットワークを構築し、今後の協力基盤を築いた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

- ① 金暲和、ケータイのかくれた次元-副題：モバイル・メディアをめぐる解釈的メディア論、東京大学大学院 学際情報学府 博士論文、査読有、2014
- ② 김경화、휴대폰 카메라와 ‘사진 찍기’-일상적 시각 기록 장치에 대한 미디어 고고학적 탐구、언론정보연구、서울대언론정보연구회, 45-1, 2017, pp. 47-74 = 金暲和、ケータイカメラと写真撮影-日常的視覚記録装置に関するメデ

ィア考古学的探求、言論情報研究, 言論情報研究、ソウル大学言論情報研究会、査読有、45-1、2017,

pp. 47-74.

DOI:

10.22174/jcr.2017.54.1.48

[学会発表] (計 15 件)

- ① Kyounghwa Yonnie Kim, A forgotten cartography of Myungsoo-dae, Inter-Asian Cultural Studies Conference, 2017, July 29, Seoul (South Korea)
- ② Kyounghwa Yonnie Kim, Tactile photography, Inter-Asian Cultural Studies Conference, 2017, July 30, Seoul (South Korea)
- ③ Kyounghwa Yonnie Kim, The birth of detective stories and Kyungsung of the 1930s: Urban sensibilities in Kim Naesung’s Oevres, Cultural Typhoon, 2016, July 3, Tokyo (Japan)
- ④ Kyounghwa Yonnie Kim, The reflexive front: Digital media and creative methods, Media Education Summit, 2016, November 4, Roma (Italy)
- ⑤ Kyounghwa Yonnie Kim, Mobile digital photography: A reflexive approach of mobile everyday practices, MOBILE MEDIA AND EVERYDAY LIVES: BRIDGING FINLAND AND JAPAN. 2015, December 3, Helsinki (Finland)
- ⑥ Kyounghwa Yonnie Kim, The offstage of Galapagos keitai discourse, The International Workshop: All I need is Love? Nation, Affect and Aversion in a Post-community Asia. 2015, October 24, Taipei (Taiwan)
- ⑦ Kyounghwa Yonnie Kim, Early mode of everyday media practice: Postcards in the Japanese modern era, Inter-Asia Cultural Studies Conference, 2015,

- August 4, Surabaya (Indonesia)
- ⑧ Kyoungwha Yonnie Kim, A skill of being there: Transformation of photography, International Association for Media and Communication research, 2015, July 13, Montreal (Canada)
- ⑨ 金暲和, 写真撮り実践の変容と SNS の示唆、第 32 回情報通信学会大会 モバイルコミュニケーション研究会、2015 年 6 月 21 日、東京
- ⑩ Kyoungwha Yonnie Kim “Mechanized gaze: Daguerreotype, camera Lucida, and selfie stick”, SUBALTERN seminar. 2015, February 26, Seoul (South Korea)
- ⑪ Kyoungwha Yonnie Kim, Reconsidering wall poster activism: Online participatory culture in comparative historical perspective, the 10th International Conference Crossroads in Cultural Studies, 2014, July 2, Tampere (Finland)
- ⑫ Kyoungwha Yonnie Kim, Drawing the future: Towards creative mobile media literacy, the 15th Annual convention of Media Ecology Association, 2014, June 20, Toronto (Canada)
- ⑬ 金暲和, メディア実践としての大字報—オンライン市民の系譜学, 韓国言論情報学会 秋季学術大会、2013 年 11 月 29 日、大田(韓国)
- ⑭ Kyoungwha Yonnie Kim, Mobile literature and creativity: From a landscape of *keitai shosetsu* in Japan, Inter-Asia Cultural Studies Society Conference 2013, July 3, Singapore (Singapore)
- ⑮ Kyoungwha Yonnie Kim, Mobile phone as ‘a cultural thing’: A reflexive approach towards mobile technology, International Communication Association, Mobile pre-conference, London, 2013, June 15, London (United Kingdom)
- 〔図書〕 (計 10 件)
- ① 金暲和 (2017 刊行予定) 「触覚的写真: モバイル・スクリーンの人類学」光岡寿郎・大久保遼共編著『スクリーン・スタディーズ—デジタル時代の映像／メディア経験』東京大学出版会
- ② KIM, Yonnie Kyoung-hwa, (2017, forthcoming) “Keitai in Japan”. Fabienne Darling-Wolf (Ed.) *Handbook of Japanese media*. Routledge.
- ③ KIM, Yonnie Kyoung-hwa. (2017, forthcoming) “Exclusively for keitai? Literary creativity of Japanese media youths”. Lothar Mikos & Ilana Eleá (Eds.) *Young Creatives: Children and youth sharing their stories*. Nordicom.
- ④ 金暲和 (2016) 『ケータイの文化人類学—かくれた次元と日常性』CUON, 184 頁
- ⑤ Kyoungwha Yonnie Kim. (2016) “Pre-history of mobile practices: genealogy of telepresence”. In H. Tomita (ed.) *The post-mobile society: From the smart/mobile to second offline*. pp.13-23.
- ⑥ 金暲和 (2016) 「ケータイ前史—テレプレゼンスの系譜」富田秀典編 『ポスト・モバイル社会—セカンドオフラインの時代へ』世界思想社、22-38 頁
- ⑦ KIM, Yonnie Kyoung-hwa. (2015). “The everydayness of mobile media in Japan”. In L. Hjorth & O. Khoo. (eds.) *Routledge Handbook of New Media in Asia*. Routledge. pp.445-457.

- ⑧ KIM, Yonnie Kyoung-hwa. (2014).
“Genealogy of mobile creativity: A
media archaeological approach to
literary practice in Japan” . In G.
Goggin & L. Hjorth. (eds.) *The
Routledge companion to mobile media.*
Routledge. pp. 216-224.
- ⑨ 김경화 (2013) 「세상을 바꾼 미디어」
다른출판사 = 金暻和 『世相を変えたメ
ディア』ダルン出版 (韓国語) ,184 頁
- ⑩ KIM, Yonnie Kyoung-hwa. (2013). “An
‘insider’ s view in media studies:
Performance ethnography of mobile
media” . In R. Rinehart, K. Barbour &
C. Pope. (eds.) *Ethnographic
worldviews: Transformation and social
justice.* Dordrecht. pp.205-215.

[その他] (計 1 件)

- ① 金暻和訳 (2016=2011) 「悲しきつづやき
ー3.11 とソーシャルメディア」富田秀典
編 『ポスト・モバイル社会ーセカンド
オフラインの時代へ』 世界思想社、
198-218 頁=Larissa Hjorth &Yonnie
Kyoung-hwa Kim. “Good grief: The role
of social mobile media in the 3.11
earthquake disaster in Japan”. In
Digital Creativity. Vol.22, Issue 3.
(Special issue: Mobile ubiquity in
public and private spaces). pp.
187-199. Routledge.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

金 暻和 (KIM, Kyoung-hwa Yonnie)

神田外語大学・外国語学部・国際コミュニ
ケーション学科・講師

研究者番号 : 90646481